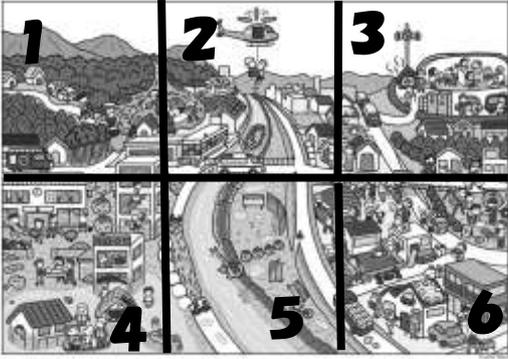


U1-2 大雨 暮らしを取り戻す

<p>目的</p>	<p>雨が上がったあとに、どのようなことがあるのか―日常の回復に向けて復旧活動のさまざまなやそこでの人々の助け合いについて話し合う。</p>
<p>イラストについて</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">  </div> <div style="width: 45%;"> <p>U1-2のシートはU1-1と同じ場所の「大雨のあと」、雨が上がって人々が活動をし始めたところである。</p> <p>【地形】 U1-1と同様、奥から手前に向かって高一低、左手より右手の方が少し高い。</p> <p>【注目ポイント】 上の縮図に示した1~6の順序で説明する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 土砂崩れの復旧、担架で搬送される人、通行止めの道路、孤立した家々、消防車 2. 建物からの落下物、割れたガラス、ヘリコプターによる救助、救急車、ブルーシートのかかった屋根、土のうを片付ける人々 3. 避難所^(注)の人々、避難場所^(注)に設けられた施設、物資輸送のトラック、水を運ぶ人々、お年寄り 4. 応急修理された堤防、浸水の痕跡、ゴムボートによる救助、担架で搬送される人、協力して片付ける人々、災害ゴミ、ラジオを聴く人 5. 河川敷の被害、物資輸送のトラック 6. 住宅地の復旧作業（運び出し、消毒など）、災害ゴミの運搬、炊き出し、マンホールの穴、給水車、充電ポイント、被害状況を記録する人 <p>上記以外にも、気づいたことは自由に持ち上げてその場の話題にできる。</p> </div> </div>
<p>使い方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個々の場面について「何をしているの?」「誰がしますか」といった疑問や、「ラジオなら電池でいいね」などの気づき等、お互いのこれまでの経験を共有する。 ・ 地域が災害に見舞われたとき、自分たちが「何ができるか/できないか」「近くの人のために何が手伝えるか」「どんな助けが必要になるか」を話し合う。 ・ U1-1の場合と同じく、このシートも必要なときに必要なだけ使う。 ・ 地域の過去の水害の写真やハザードマップなどを併用するのもよい。 ・ ゲーム的な利用も可能。 <p>(注) シート、補助カードはともにお互いの話を通じやすくするためのツールであり、語彙学習のためではない。</p>
<p>備考</p>	<p>多様な出来事の提示を優先したため、厳密には同時に発生しがたい事象も一つの画面に含まれている。</p>

	<p>(注) 避難場所と避難所の違い： 避難場所、避難所の実際の名称は自治体により若干異なる場合もあるが、原則、避難場所（指定緊急避難場所）は、災害時に一時的に危険がから逃れるための場所で、公園や緑地、学校などが指定されている。基本的に水や食料の備えはない。それに対し避難所（指定避難所）は、災害時に被害を受けたかた、またそのおそれのあるかたが一定期間避難生活をするための施設で、飲料水やトイレなどがある。</p>
--	---

○補助カード

学習者とコミュニケーションをするときに、伝えたい状況やことばを日本語だけで伝えるのが難しい場合のコミュニケーション支援ツール（目で見ることば）として活用してください。U1-1, U1-2 の補助カードは共通です。

(印刷して切り離し、カード型にして使用)

カードNo	タイトル	備考
U1-2		